



映画「道草」、そして私の“みちくさ”

2014 年第 1 回目のイベントは「障害胎児の命を抱きとめる」という題で『運命の子 トリソミー』の著者でもあり、医師の松永正訓氏をお招きし、講演会を開きました。2016 年は、「風は生きよという」人工呼吸器装着者の日常生活を追ったドキュメンタリー映画上映と合わせてシンポジウムを実施。そして今回 3 回目となるイベントを開催することとなりました。

私自身、考えてみるとみちくさをしながら、歩いてきたように思います。表通りを通っていたら、気づかなかったこと、見えなかったこと、出会わなかった人が何と多かったことでしょうか。走らなくていいのです。急がなくても大丈夫。ゆっくりとしたペースでみちくさしましょう。この映画に登場する知的障害者と言われる人たちから教わり、気づかされ、考える機会となる「道草」に、期待しています。

生命倫理カフェ・ねりま 主宰 森本陽子



テーマは「自立生活、それから、これから」

「どんな障害があったとしても、自分らしく、自立した生活を送る。」それはどういう意味をもつことなのだろうか。

シンポジウムに映画の出演者等を招き、映画「道草」の裏話や、福祉現場の珍道中を交えながら、その問いを皆様と深めていきたいです。

障害の有る無しに関わらず、それぞれの人の「道草」の中で、人の違いを発見し、受け止め、対話を繰り返していくことで、「私」の人生も面白く、豊かになるはず。ぜひご参加ください。

「ちいねり」(地域をつくる上映会 IN 練馬) 代表 菅原英倫

■シンポジウム パネリスト 紹介



<菅原英倫さん> 介護福祉士、社会福祉士、2 児のお父様

練馬で在宅介護のヘルパー、就労支援事業、放課後等デイサービス等、15 年程福祉に関わる仕事に関与。それ以前は、日本中をフラフラと「道草」人生を送る。いろんな人たちに福祉の「楽しさ」や「やりがい」を伝えていきたい、そういう思いで、パネリスト進行役を務めます。

<木村英幸さん> 介護福祉士、ケアマネジャー

練馬で在宅介護ヘルパー、ケアマネジャーを経て、現在はウィズタイムハウス（就業支援事業 B 型）にて、サービス管理責任者として勤務。またその傍ら、子どもの遊び場活動や福祉活動も行っています。趣味は、古書や石および磁器の収集。

<桑田貴江子さん> 映画出演者の桑田宙夢君のお母様

宙夢君は 6 歳の時、ご家庭の都合により、入所施設に預けられます。その後、14 歳の時には、施設生活をする中で本人の状態が悪くなり、悩んだ末、17 歳の時に地域で自立生活を始めます。現在は練馬区内の福祉園に通いながら、24 時間の生活を支えるヘルパーと共に自立生活を送っています。

<谷口晴子さん・百瀬賢太郎さん> I-LDK 実行委員会メンバー

（「NPO 法人障がい児・者の学びを保障する会」が行う、ダイバーシティ発信基地の呼称）ここでは、障害による生きづらさを抱えながらも、人々とかかわりながら、自分らしく生き、地域社会の中であたりまえに暮らしていくために、当事者が主体となって様々な「学び」の機会を創る活動を行っています。

■生命倫理カフェ・ねりま 事務局：〒177-0035 東京都練馬区南田中 5-16-2 TEL 03-3997-6210

<https://www.bioethicscafe-nerima.jimdo.com/>

■「ちいねり」(地域をつくる上映会 IN 練馬)：<https://ja-jp.facebook.com/tiikinerima/> リンク⇒

